

# 台湾における国際交流発表会の事前建築ゼミ活動

三重県立伊勢工業高等学校  
教諭 加藤 康孝

## 1. はじめに

本校では近年、学校評価委員より、国際社会に対応できる資質・能力を備えた生徒の育成の必要性が指摘されてきました。これを受け、本校建築科では、海外のものづくりに関する技術・技能に触れ、広い視野と実践的な専門性を育成することを目的として、台湾（台南市）の高校との国際交流に向けた準備を進めてきました。本研究では、初の試みとなる国際共同研究の実施にあたり、「地域の住まい」を主題とし、調査学習と建築製図・模型制作を通して提案を行うこととしました。具体的には、日本統治時代に台湾に建設された日式建築と、日本の明治期建築との共通点を分析するとともに、両地域の風土や文化の差異についても考察し、その成果を発表することを目的としました。このため、本校建築科の生徒を主体として、令和7年2月より事前ゼミ活動を開始しました。表1には研究の全体的な流れを示しており、最終的に台南第一高級中学との国際交流発表に適した内容へと体系化しました。なお、本報告では令和8年2月に実施した台南での作品展に参加した生徒の成長についても併せて報告します。

表1 研究の全体的流れ

	台湾教育研修	事前ゼミ活動	授業製図等
R7 2月			
3月	建築科職員渡航 国際研究の事前打ち合せ	2/11ゼミ1 明治の建築史1 3/3ウオーカブル打ち合わせ1 3/8ゼミ2 明治の建築史2 3/15ゼミ3 明治の建築史3 3/22ゼミ4 台南の日式建築 3/25ゼミ5 明治村の建築視察	
4月		4/22ウオーカブル打ち合わせ2	2年製図
5月		5/8ウオーカブル打ち合わせ3	ペーパー制作
6月		6/9ウオーカブル打ち合わせ4 6/17ウオーカブル打ち合わせ5	
7月		6月末～8月末 コンベ作品制作	
8月		8月ゼミ6 旧岩崎邸の建築視察	製図清書
9月	9/26オンライン授業1回	9月～2月 模型・資料制作 9/15ゼミ7 六華苑の建築視察	
10月	10/27模型国際郵便 (10/29台南着)		
11月	11/7オンライン授業2回	作品展 鳥羽市(11/2～12/7) 11/3ゼミ8 長崎グラバー邸視察 11/13文化祭展示 「台湾台南市の建築紹介」	
12月	12/24オンライン授業3回 12/28データ1を台湾送信		
R8 1月	1/5 データ2を台湾送信 2/5模型国際郵便 (2/9着)		
2月	2/11～2/14 生徒渡航 2/12AM会場準備 2/12PM展覧会開会式 2/12～3/6 共同発表展 2/24報告書1発送	2/16～2/14 報告資料集制作 2/16 台南研修校内報告会 2/20 ウオーカブル現場見学会 3/4 ウオーカブル意見交流会 3/15 ウオーカブル完成式典	台南展示
3月	3/16報告書2発送		

## 2. 事前ゼミの目的

台南の高校との交流が決定した当初、生徒および教職員の双方において、大きな期待と同時に不安がありました。台湾の生徒の高い能力に自分たちが対応できるのかという懸念があり、特に言語の壁の中で自らの力を十分に発揮できるかという点が、最も大きな不安として挙げられました。しかしながら、この貴重な機会を受け身のままで終わらせたくないという意識が、生徒の中に次第に芽生えていきました。その結果、「自分たちは何を伝えるのか」という視点に立ち、早期から主体的に事前学習を重ねていく必要性を認識するようになり、この姿勢の転換こそが、本研究の方向性を大きく変えるきっかけになりました。事前ゼミは、三つの視点から構成されています。本共同研究では、台南の国立成功大

学博物館の教授より、台南第一高級中学（高校1年生）および伊勢工業高校建築科の生徒に対して共通課題が提示されました。両校の生徒はその課題に基づき共同で研究を



（写真1）台南第一中学高校生の皆さん（写真2）本校でのオンライン授業  
進め、令和8年2月に台南において研究成果発表会を開催することが計画されました。台湾では9月に新学期が始まるため、日本側はより長期的な準備期間を確保することが可能でした。そこで本校では、研究の質を高めることを目的として、令和7年2月より事前ゼミを開始し、約1年間にわたる準備を経て、その成果を携え、台湾の地での発表に臨むことができました。

### 3. 国際共同研究の内容

台南には、日本統治期に建設された日式建築が現在も数多く残されており、それらは歴史的保存価値にとどまらず、市民生活の中に溶け込んだ存在となっています。本研究において大学から提示された課題は、これらの日式建築について、建築史、風土・熱環境、ならびに利用実態といった複数の観点から分析し、研究成果としてまとめることでした。対象となった建築は台南市内の3件であり、台南第一高級中学の生徒は領域横断型の探究・実習コース（写真1）の一環として研究に取り組みました。研究の初期段階では、国立成功大学博物館の副研究員による講義を受講した後、対象建築3か所の現地調査を実施し、生徒自らが建築の歴史的文脈を読み解き、細部に至るまで観察・記録を行いました。その後、台南側の生徒が作成した調査資料を基に、各建築の特徴や地域の気候風土について整理し、オンライン授業を通じて本校生徒との間で成果の共有と意見交換を行いました。オンライン授業（写真2）は、台南第一高級中学の金曜日の授業時間内に実施され、本校からは8名程度の生徒が参加しました。この双方向の学びが、本共同研究の出発点となりました。一方、本校の生徒は建築科に所属していることから、国立成功大学の教授より、対象建築のリノベーション提案という具体的な課題まで提示されました。これを受け、生徒たちは日式建築の様式的特徴を整理するとともに、台湾側から学んだ風水や気候風土の視点を踏まえ、地域性と建築の関係性を重視したリノベーション案の検討を進めました。

提示された対象建築は、①台南知事官邸（写真3）、②台南庁長官邸（写真4）、③鶯料理（旧日本料理店）（写真5）の3件でした。最終的には、③鶯料理の建物に焦点を当てたリノベーション提案（写真6）を中心に研究を深化させました。①台南知事官邸については、「庭を歩きたくなる空間」を主題とし、来訪者が滞在を楽しめる計画を検討しました。その際、伊勢市において提案した「伊勢市駅前ウォークブル計画」（写真7）を応用し仮設テントを用いた空間活用提案へと展開しました。②台南



（写真3）台南知事官邸



（写真4）台南庁長官邸.



（写真5）鶯料理



本共同研究を通じて、日台双方の生徒が共有した最も重要な認識は、「建築は単なる様式やデザインによって成立するものではなく、気候・風土・文化と密接に関わりながら形成される存在である」という点です。建築は、時代と人、そして文化をつなぐ媒体であり、その理解には多角的な視点が不可欠であることが確認されました。また、事前学習の充実が相互理解を深める上で極めて重要であることも明らかとなりました。十分な準備を行うことで、交流の場においてより高度な議論が可能となり、学びの質が一層高まることが実感されました。本研究の最大の教育的意義は、建築を「知識として習得する対象」から、「調査・分析・対話を通じて理解を深める対象」へと捉え直すことができた点にあります。生徒たちは、他者の意見を受け止め、自らの考えを整理しながら建築を読み解く視点を獲得しました。

さらに、日本と台湾の生徒が協働することで、グローバルな視野を持ち、将来の建築活動に活かすことのできる資質・能力の育成につながったと考えられます。加えて、本校では模型制作および展示を通して提案内容を可視化し、第三者へ伝達する経験を積むことができました。この過程において、建築模型の有効性と表現手法としての価値についても新たな気づきが得られました。

## 6. 渡航した生徒のコメント(抜粋)

・台湾の人々は、相手を尊重し受け入れてくれるような温かい姿勢で接してくださり、その堂々とした言動や雰囲気強い印象を受けました。その活気に触れることで、自らも積極的に人と関わろうとする意識が高まりました。・多くの発表の機会を経験できたことへの感謝はもちろんのこと、それを支えてくださった方々への感謝の気持ちを改めて認識しました。・人と対話する勇気が、自分自身を成長させる力になることに気付くことができました。・今回の共同研究を通じて、海外に対する心理的なハードルが下がり、今後の挑戦への意欲が高まりました。(写真9)

## 7. 謝辞

この研究を進めるにあたり、公益財団法人天野工業技術研究所の皆様には、多大なるご指導を賜りました。ここに深く心より感謝申し上げます。

また、共同研究の機会を頂戴し、現地調査および交流活動において多大なるご指導とご助言をいただきました国立成功大学博物館・建築学科、国立台南第一高級中学の皆様にも、心より御礼申し上げます。

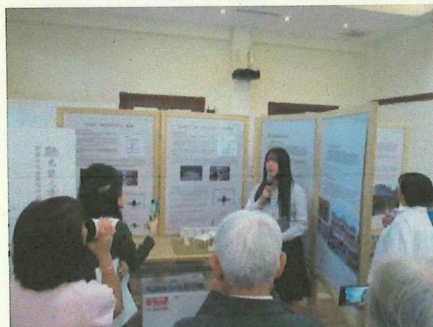
さらに、高田短期大学 大野照文特任教授をはじめ伊勢市都市整備部都市計画課、伊勢市駅前商店街振興組合、三重県建設業協会伊勢支部、三重県建築士会伊勢支部、鳥羽市立海の博物館館長ならびに学芸員の皆様にも心より感謝申し上げます。以上の皆様のご厚情に深く感謝し、ここに記して謝意を表します。

## 8. 参考文献

「聽見築乃音」作品展(写真10) 台南第一高騰中学との共同研究の一連の文献並びに共同研究資料  
まちなかウォークブル推進事業 伊勢市公式ホームページ



(写真9) 共同研究メンバー



(写真10) 「聽見築乃音」作品展会場